

メディア様向けインターステラテクノロジズ事業説明会 およびロケット姿勢制御用ジンバル試験取材のご案内 —福島支社開設後、福島での初の重要試験—

いつも大変お世話になっております。貴社におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
インターステラテクノロジズ株式会社（本社：北海道広尾郡大樹町、代表取締役社長：稲川貴大、以下インターステラテクノロジズ）は2022年12月6日（火）10時40分～12時30分、メディアの皆様向けの事業説明会およびロケット姿勢制御用ジンバル試験（以下本試験）のメディア公開を下記の通り行います。ご多用の折大変恐縮ではございますが、皆様のご参加をお待ちしております。

インターステラテクノロジズが開発している超小型人工衛星打上げロケット「ZERO」（以下ZERO）は1段目にエンジン9基、2段目にエンジン1基が付く2段式ロケットとなっています。ジンバル機構はエンジンの噴射の向きを制御する重要部品で、福島支社と東京支社を中心に開発を進めてきました。

本試験は、インターステラテクノロジズが2021年7月に福島支社を開設してから、初めての重要試験となります。ジンバル機構の部品製造には、福島県浜通り地域の企業様にもご参画いただいております。

取材概要

当日は2部構成とし、前半に南相馬市様からのご挨拶およびインターステラテクノロジズ代表の稲川による事業の展望やZEROの開発進捗状況に関するご説明を行います。後半は、ジンバル試験の準備から終了までの一連の作業をメディアの皆様にご公開し、試験担当者がぶら下がり取材に応じます。

■取材日時：2022年12月6日（火）

- 10時30分：南相馬市産業創造センターA棟会議室にて受付開始
- 10時40分～10時50分：南相馬市長・門馬和夫様からご挨拶および航空宇宙の取り組みご紹介
- 10時50分～11時30分：IST代表稲川よりIST事業およびZERO開発進捗についてご説明
- 11時30分～11時45分：質疑応答
- 11時45分～12時：IST福島工場（南相馬市産業創造センター内）へ移動
- 12時～12時20分：ジンバル試験公開
- 12時20分～12時30分：ぶら下がり（代表稲川および試験担当者を予定）
- 12時30分：終了

■集合場所：南相馬市産業創造センター（南相馬市原町区萱浜字巣掛場45-245）

■申込方法：下記フォームもしくは右記QRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/QUxx9D9GxYmCygpR8>

■申込締切：2022年12月2日（金）16時

■注意事項：必ずお読みください。

- 試験の時間は直前まで変更の可能性がございます。変更となった場合は、お申し込みいただいた皆様にご連絡いたします。
- 試験取材にはヘルメットが必須となります。ヘルメットのご持参・ご着用をお願いいたします。
- 新型コロナウイルス対策として、取材受付時にマスクの着用確認・消毒・検温を実施いたします。合わせて、事前にご自宅でご検温いただき、体調がすぐれない方、咳やくしゃみ、発熱など風邪症状のある方は参加をご遠慮ください。



トピックス

福島支社開設後、初の重要試験

福島県では原発事故で失われた浜通り地域の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」が行われています。今後大きな成長が見込まれる宇宙産業はプロジェクトの重点分野の一つとなっており、本試験は「地域復興実用化開発等促進事業」で採択されたテーマ「民間企業による低コストな超小型人工衛星打上げロケットの開発」の一環で行われます。インターステラテクノロジズにとっては2021年7月の福島支社開設後、初めての重要試験となります。

部品製造に南相馬市の企業が参画

ZEROは、世界的に需要が大きく伸びている超小型の人工衛星を、宇宙空間（地球周回軌道上）に運ぶための小型ロケット（長さ25m、直径1.7m、総重量33t）です。海外のロケット会社と引けを取らない国際競争力のあるロケットとして、初号機打上げに向けた開発・製造を進めています。

インターステラテクノロジズは設計から製造、試験まで自社で一気通貫しているのが特徴です。福島・東京支社ではジンバル機構のほかに、人工衛星を収納するフェアリング部、ロケットの頭脳に当たるアビオニクス（電子機器）の開発・製造を行っており、もともと製造業に強みのある福島県浜通り地域の企業様にも複数、部品製造に参画いただいています。



急成長する宇宙市場、課題は宇宙輸送

世界の宇宙市場は年々拡大しており、2040年には今の3倍近くとなる110兆円の巨大市場に成長すると予測されています（*1）。特に小型サイズの人工衛星の需要が大きく伸びており、衛星を使ったインターネット通信の普及、衛星データを活用した「超スマート社会」の実現など、幅広い分野への波及効果が期待されています。一方、急拡大するニーズに対し、衛星を宇宙に運ぶためのロケット不足が世界的に課題になっており、日本でも2022年、民間ロケットの事業化促進などにより宇宙輸送能力を強化する方針が示されています。

*1 デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

《インターステラテクノロジズ株式会社 会社概要》

インターステラテクノロジズは、宇宙への圧倒的に低価格で便利な宇宙へのインフラを構築し、誰もが宇宙に手が届く未来の実現を目指すスタートアップ企業です。北海道大樹町に本社を置き、東京支社と福島支社、室蘭技術研究所（室蘭工業大学内）の4拠点で開発を進めています。観測ロケットMOMOは国内民間企業単独として初めて且つ唯一となる宇宙空間到達を達成、次世代機となる超小型人工衛星打上げロケットZEROの開発を本格化させています。

所在地 : 北海道広尾郡大樹町字芽武149番地7
代表者 : 代表取締役社長 稲川 貴大
事業内容 : ロケットの開発・製造・打上げサービス
<https://www.istellartech.com/>

